

外 国 語

英 語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験が449,328人（昨年度は463,985人）で、受験者全体の約98.4%（昨年度も約98.4%）に当たる。このことは、本テストが受験者及び学校関係者のみならず、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。満点はリスニングと同じ100点で、本試験の平均点は昨年度の53.81点から下がり、51.54点であった。

本テストの問題作成方針では、平成21年告示の学習指導要領で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能5領域のうち「読むこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価するとともに、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて、英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、事実と意見を区別して情報を活用したりする内容となっている。

第1問A 主に事実が述べられた資料から目的に応じて必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第1問B 主に事実が述べられた資料から複数の情報を統合して共通点を適切に読み取る力や、詳細な情報を正確に読み取る力が問われている。

第2問A 事実と意見が併記された資料の情報を正確に読み取る力や、読み取った情報を基に推論する力が問われている。

第2問B 事実と意見が混在して述べられている資料から、複数の情報を正確に読み取る力や、読み取った情報を基に推論する力が問われている。

第3問A 個人的な経験を述べた文章を読み、情報を正確に読み取る力や、読み取った情報を基に適切に応じる力が問われている。

第3問B 個人的な経験を述べた文章を読み、情報を正確に読み取る力が問われている。また、その文章に関連して第三者が書いた文章を読み、両者を適切に対応付ける力も問われている。

第4問 まとまりのある文章、非言語的な図表、及び複数の短い文章を読み、それぞれから得られる情報を統合して、資料に適切にまとめる力が問われている。また、その過程で、正確な読み取りに基づいて推敲する力も問われている。

第5問 物語を読み、場面の前後関係や登場人物の行動を正確に読み取る力、及び登場人物の心情を適切に読み取る力が問われている。また、物語全体の趣旨を踏まえてキーワードを適切に理解する力も問われている。

第6問A 科学的な文章を読み、概要や要点を適切にメモにまとめる力が問われている。その過程で、説明されている事柄を抽象化したり、逆に適切に具体化したりする力も問われている。

第6問B 科学的な文章を読み、情報を正確に読み取り、要点を適切にスライドにまとめる力が問われている。また、文章の趣旨を適切に捉え、情報を統合して推論する力も問われている。

3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、個々の大問では「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文の分量に準じた問題文を扱っているものがほとんどである。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすいものであるが、限られた時間内で正確に読み取り判断するには分量が多く、やや難易度が高い設問もある。幅広い受験者に対応する難易度の問題が、全体的にバランス良く配置されているものの、過去最高の語数であり、問題文だけで4ページにわたる設問があったことに鑑みると、全体的に受験者が落ち着いて問題に取り組める大問構成とすることを検討してもよいと思われる。

第1問A 約220語で2つの設問。イベントの内容を紹介するチラシとして適切なテキスト分量である。イベントの魅力が分かりやすく伝わるよう工夫された問題文で読みやすく、設問の難易度も標準的である。

第1問B 約270語で3つの設問。観光コースごとに訪問先の情報がテキスト情報でのみ紹介されており、観光客向けにアピールする作りとしてはやや不自然である。スキミングとスキニングの技能を使って情報を読み取る英文として、難易度は適切である。

第2問A 約200語で5つの設問。クラブの新入部員勧誘のチラシとして、箇条書で情報量が少なく抑えられ、読みやすい工夫がされている。問3では、囲碁・将棋等の部の活動として受験者が一般的に想像できるものの、問題文では述べられていない選択肢が含まれるなど、やや難しい。

第2問B 約320語で5つの設問。保険サービス内容に関する事実と、利用者としての主観や意見が混在して表現されている問題文である。ロコミを読んで自身の保険選択の参考にするという活動が想定されており、設問ではその目的を達成するために行う情報整理の過程が再現され、問題文の内容を十分に生かした設問の分量と難易度である。

第3問A 約220語で2つの設問。イベントの思い出についてのブログ本文と共に、ルールが箇条書で表記されていて、イベントの全体像を読み取りやすい。問1では、「最後のチェックポイントを目指す途中で撮影した」ことを基に、本文中では表現されていない背景の写真を選ぶなど、注意深い読み取りが求められる。

第3問B 約350語で3つの設問。イベントへの参加体験を報告する学校新聞の記事の分量や難易度は適切である。問1の選択肢の各コメントの分量はやや多い。逆に問2、問3の選択肢はいず

れも2～3語程度と短く、端的に言い換えて表現された選択肢から正解を選ぶことに困難を感じた受験者もいたと思われる。問3の設問は注意深い読み取りを求める良問である。

第4問 約670語で5つの設問。(1)議論の根拠となる記事、(2)クラブ内で実施したアンケートの結果、(3)議論のために作成したメモという3つの素材が、分量のバランス良く提示されている。ただし、資料は3ページにわたっており、設問で問われている事柄を理解するには(3)の議論用のメモも参照することが求められる。

第5問 約990語で5つの設問。4ページにわたり、3人の登場人物のそれぞれの人生について、異なる時間軸を行き来しながら展開する物語を発表メモにまとめていく構成は、受験者に高度な情報処理を求め、テキスト分量の点でも難易度が高い。問3では、発表メモに使用されている、provide A with Bの意味することや、その主語がマキであることが分からない受験者がいたことが想像できる。マキがタクヤのコーヒーを自分の店で宣伝したという具体的なエピソードに対し、抽象的に「人々に知られるようにした」という、言い換えた表現を選ぶ設問は、正答率が本テスト中で最も低く難易度が高かったが、正確に読み取る能力を正しく測ることができる問題である。

第6問A 約630語で4つの設問。記事の英文と発表メモで3ページにわたっており、テキスト量はやや多いが、受験者自身が体験したり容易に想像したりできる例と共に情報が整理されており、英文の難易度は適切である。一方設問では、問2において解答の根拠となる文(In such cases, the passage of time for those people is similar to that for children.)に、3つの指示語や代名詞(such, those people, that)が含まれ、何を指すのかを整理して理解しなければならない。問3、問4においても、本文から類推できる例を選ぶ必要があるなど、より深い理解に基づいて解答することが求められている。

第6問B 約770語で5つの設問。ウェブ上の記事と発表スライドで3ページにわたっており、テキスト量はやや多く、化学物質やそれが作用する際の仕組みについての用語には、受験者にとってなじみがないと思われるものも見られる。しかし、ディスコースマーカーが適切に配置されたテキスト自体の難易度は標準的である。スライドに簡潔に発表内容をまとめるという、教育活動として自然な学習過程が適切な分量で再現されている。問3は、numb handsの語句知識にのみ基づいて解答することが求められ、多くの受験者にとっては難易度の高いものであったと思われる。

4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標を踏まえて、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況が設定されており、高等学校での学習の過程や英語を活用する場面を意識した適切な場面設定がなされている。また、イギリス英語の表記を含めるなど、様々なテキストから出題されており、バラエティに富んだ出題形式になっている。文章表現は、学習指導要領に基づき、それぞれの設定に応じた適切なものとなっている。また、図や表は、本文や資料の中で効果的に使用され、その量もおおむね適切である。

第1問A アメリカの語学学校への留学中に、学校行事についてのチラシを見て、その行事に参加するために様々な情報を得るという場面設定である。参加者が体験できる活動の主要な特徴は太字で示され、ダンスをする女性のイラストもあり、体裁上の工夫がされている。

第1問B アメリカ留学中に、授業の一環で開催される小旅行についての情報を得るという場面設定である。提供される3コースが見出し付きで明確に区分表示されている。

第2問A イギリスに交換留学中に、校内のクラブのメンバー募集のチラシから、クラブの特徴やメンバーのコメントを読み取る場面設定である。Centreやanalyseなどのイギリス英語の表記が使用されている。イラストは紹介している活動内容の理解を効果的に補助するものである。

第2問B アメリカでの留学を考えているある生徒が、滞在中に必要な保険の契約について、経験者の口コミを読んでいるという場面設定である。能動的に情報を集めて、危機管理にも配慮しながら留学に向けて準備する学習者の姿が表れている。現実的な場面にに基づき多様な思考を要求する工夫のある設問である。

第3問A ブログを読んだり、コメントを付けたりするという、多くの受験者にとってなじみのある場面設定である。問題文では、フォトリーのルールについては別枠で表記され内容が読みやすいように配慮されている。また、realisedといったイギリス英語の表記が用いられている。問2は生徒がブログを読んだコメントを選ぶ設問で、正確な読み取りが求められる適切な設問であるが、正解となる選択肢がブログへのコメントとしてやや不自然に感じられる。

第3問B 学校行事に参加する準備として前年の参加者が書いた記事を読むという設定である。問1のコメントを時系列に並べるという設問が言語使用として不自然に感じられる。それぞれのコメントがどのパラグラフについて述べられたものかを選ぶという設問でも良かっただろう。

第4問 良い教室のデザインについての記事と部員へのアンケート結果を基に、英語クラブの部屋のデザインの改善について議論するための資料を作成しているという場面設定である。記事とともに、アンケート結果には量的な資料（グラフ）と質的な資料（コメント）が含まれており、多様な資料の読み取りを要求する問題である。

第5問 英語で議論する集まりで、ある物語を紹介するためにプレゼンテーション用のメモを作るという場面設定である。物語文というテキストの特徴を踏まえた発表のまとめ方として、物語の概要や、場面に登場人物の特徴が暗示されている部分を特定するメモの取り方等については高等学校での言語活動を指導する上で参考となる。場面の転換を◆を用いて明示し受験者の理解を助けている。問3は主人公の行動を端的に表現した選択肢を答える設問である。問5はこの文章におけるironyという語の表す内容を答える問いである。単なる語句の知識だけではなく使い方について正確な理解が必要な設問である。高等学校の学習において生きて働く知識を身に付けることを志向した設問である。

第6問A 時間の知覚についての記事を読み、発表のためにメモを作成するという場面設定である。メモとして、パラグラフごとの要点をまとめたり、様々な時間の知覚のありようについて具体的に例を挙げて理解を深めたりするという活動が高等学校での言語活動の参考になる。

第6問B 科学クラブで発表を行うためにウェブ上にある唐辛子に関する記事を読んで、スライドに観点別に要点をまとめながら準備を行うという場面設定である。またスライドの間違いを発見するという実際の学習過程も踏まえられている。高等学校での言語活動の参考となる出題であるとともに、教科横断的な学びや探究活動を意識した問題と言える。

5 ま と め（総括的な評価）

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを評価するテストとして適切であったと言える。

題材については、学校生活に関わるものから社会生活に関わるものまで、また、日常的话题から科学的な話題まで、幅広く取り上げられている。テキストの形式も、チラシ・パンフレットやブログ、レポート、新聞記事など多岐にわたっており、様々な場面で英語を運用する力を測ることができるよう工夫がなされている。また、やや長めの読み応えのある物語文の読み取りなど、「読むこと」の力を多面的に測る意欲的な出題も見られた。さらに、場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されるなど、英語の多様性への配慮もなされている。

出題内容については、様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題や、複数のテキストを関連付ける問題、与えられた文章に対するコメントを考える問題、さらには、文章中の情報を統合して推論する問題など、コミュニケーションの受信者及び発信者としての思考力・判断力・表現力等を適切に測る出題となっており、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている。

各大問においては、実際のコミュニケーションを想定した具体的な目的や場面、状況などが設定され、それらの場面や状況において目的を達成するためにどのように思考し、判断して読み進めていけばよいか設問として表されており、日々の授業づくりや言語活動を行う際の参考となる。また、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映された場面設定もあり、高等学校での学びに配慮され、大学入学者選抜の資料とするための工夫がなされたものと評価できる。過去の出題と比べても、与えられた文章や資料に照らして設問で問う内容がより妥当なものとなるよう、また、体裁の面でも受験者が取り組みやすいレイアウトになるよう改良されている。

ただし、分量については再考を要する。上述のように各設問の設計は適切であるものの、全体の分量が試験時間に比して過大であるように思われる。思考力・判断力・表現力等を適切に測るべく出題に様々な工夫をする場合、受験者が十全に力を発揮することができるよう解答時間を保障することが不可欠である。共通テストが本来測ろうとしている力を適切に測ることができるよう、今後、出題する文章を1つ減らすなど、分量の適正化を検討すべきであろう。

今年度は平成21年告示の学習指導要領に対応した試験実施の最終年度であり、来年度からは平成30年告示の学習指導要領に対応した試験が実施される。その過渡期において、本テストでも、多様な目的や場面、状況に応じて、情報を正確に読み取るだけでなく、得られた情報に基づいて推論したり、意思決定をしたり、他者に働きかけたりするなど、これまでの学習指導要領に基づきつつ、新たな学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」にも通ずる力を求める出題がなされている。

グローバル化の進展する社会において、大学に入学する者に求められる力も変化している。それに合わせて出題の在り方を柔軟に進化させようとする取組に敬意を表するとともに、今後、更に適切な出題がなされるよう期待する。